



長野県林業総合センター - 塩尻市片丘 5739

Nagano-prefectural Forestry Research Center

TEL 0263-52-0600

FAX 0263-51-1311

マツカレハ

キ - ワ - ド : マツカレハ、マツケムシ、殺虫剤、こも巻き

マツカレハによる森林被害は以前大きな問題となっていました。最近はずくなくなりました。しかし、庭木での被害は、まだよくみられます。

マツカレハ

マツカレハは、アカマツ、クロマツなどのマツ類、ヒマラヤスギ、カラマツ、ツガ、モミなどのマツ科樹木の針葉を幼虫が食害します。また、マツ類を食害するため、幼虫はマツケムシと呼ばれています。

成虫は、年1回7月から8月にかけて発生する茶褐色の翅^{はね}で白色の斑紋があるガですが、翅の色には個体差が大きく、斑紋がないものもあります。成虫は、今年伸びた新梢の針葉に100~300粒の卵塊として産卵します。

幼虫は、産卵後約1週間でふ化し、ふ化幼虫は集団で針葉の片側だけを鋸歯状に食害します。なお、食害された針葉は赤変するので、被害の早期発見の目安となります。

幼虫は1回脱皮すると分散し、針葉を基部まできれいに食害するようになり、10月頃になると針葉から樹皮の割れ間などに移動して越冬します。

越冬後3~4月頃に再び針葉上に移動して食害した後、針葉上、枝、幹などでマユをつくり蛹化します。

老熟幼虫は、体長約60mmで頭部は暗褐色、胴部は銀~黄褐色で、全体に黒色長毛



マツカレハ老熟幼虫

が生えています。幼虫は背中の一部に黒藍色の毒毛を持つため、毒毛に触れると人によってはかぶれることがあります。また、マユにもこの毒毛が付着しているため注意が必要です。

マツカレハの防除方法

マツカレハの防除方法としては、次のような方法があります。

1. 庭木などで樹高が低い場合は、新梢上の針葉の卵塊を見つけてつぶす。
2. 8月から9月にかけて、新梢の針葉が褐変したら、スミパイン乳剤、DDVP乳剤などの有機リン系殺虫剤1,000倍液を樹冠全体に散布する。

(薬剤の効果は若齢幼虫で高く、老熟幼虫では効果が劣ってくるため、越冬幼虫による春の食害には、上記の濃度では効果が得られないので注意する必要がある。)

3. 9月下旬に幹の胸高付近にコモ、むしろ、使い古しのタオルなどを巻きつけて、越冬のため移動してきた幼虫をコモなどの下に集め、1月下旬から2月中旬までにコモなどを外して幼虫ごと焼却する。

(コモを外す時期が遅くなると越冬していた幼虫が、移動してしまうのでコモの焼却は冬期に行う。)

育林部 岡田充弘